



KONICA MINOLTA

コニカミノルタホールディングス株式会社 2012年度第1四半期決算説明会

2012年7月27日

常務執行役

安藤 吉昭



想定以上の円高の中、産業用材料・機器事業での収益改善・拡大が寄与し、増収増益を達成。

実質[計画インライン+ α]の、順調なスタートとなる。

- ▶ 情報機器事業は、円高影響大きく前年同期比では減収減益となるが、概ね計画通りの進捗。
- ▶ 産業用材料・機器事業は、本年4月のグループ内再編も奏功し、前年同期比で大幅増収増益。
- ▶ ヘルスケア事業は、営業損失は残るも、前年同期から損益改善。

2012年度1Q 全社業績要約



KONICA MINOLTA

[億円]

	12年度 1Q	11年度 1Q	YoY
売上高	1,894	1,862	32
営業利益	63	33	31
<i>(営業利益率)</i>	<i>3.3%</i>	<i>1.8%</i>	-
のれん代償却額	23	22	1
のれん代償却前営業利益	86	55	31
<i>(のれん代償却前営業利益率)</i>	<i>4.6%</i>	<i>3.0%</i>	-
四半期純利益	2	△ 1	3
<i>(四半期純利益率)</i>	<i>0.1%</i>	<i>-0.1%</i>	-
為替レート [円] US\$	80.20	81.74	△ 1.54
Euro	102.91	117.40	△ 14.49

2012年度1Q セグメント別売上高・営業利益



KONICA MINOLTA

[億円]

売上高	12年度 1Q	11年度 1Q	YoY
情報機器	1,303	1,341	△ 37
産業用材料・機器	406	335	71
ヘルスケア	158	155	3
ホールディングス他	26	31	△ 5
グループ計	1,894	1,862	32

営業利益 (右側: 営業利益率)	12年度 1Q	11年度 1Q	YoY
情報機器	30 2.3%	36 2.7%	△ 6
産業用材料・機器	82 20.1%	36 10.8%	45
ヘルスケア	△ 2 -	△ 5 -	4
ホールディングス他	△ 47 -	△ 35 -	△ 12
グループ計	63 3.3%	33 1.8%	31

※産業用材料・機器事業：従来のオプト事業に計測機器事業及び有機EL照明など機能材料系の新規事業を統合した。

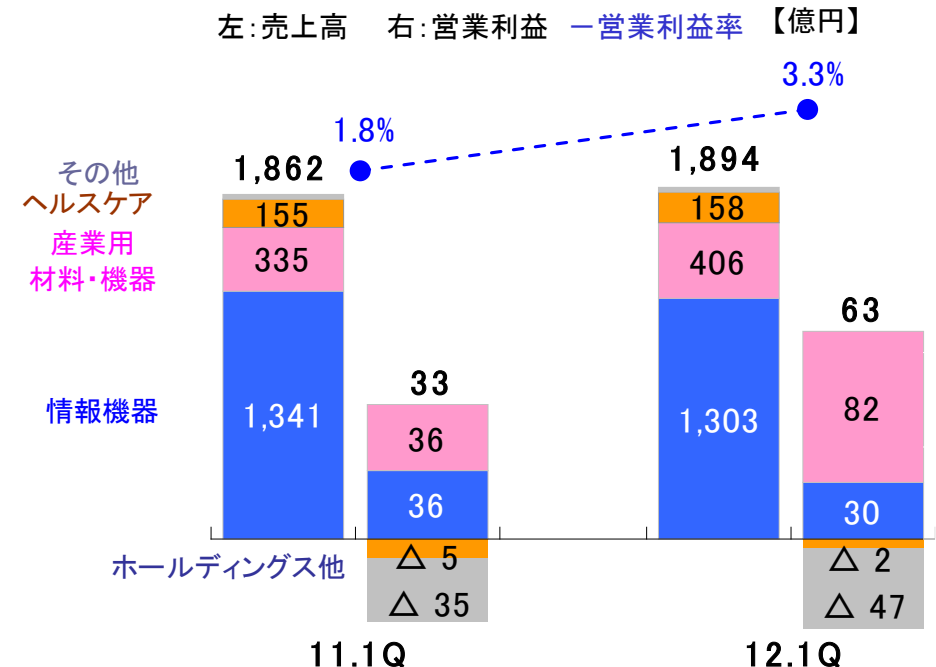
2012年度1Q 業績概況



- ▶ 売上高 : 1,894億円 対前年 +2% (除く為替影響 +6%)
- ▶ 営業利益 : 63億円 対前年 +94% (除く為替影響 +221%)

産業用材料・機器事業の収益拡大が、グループ業績を牽引

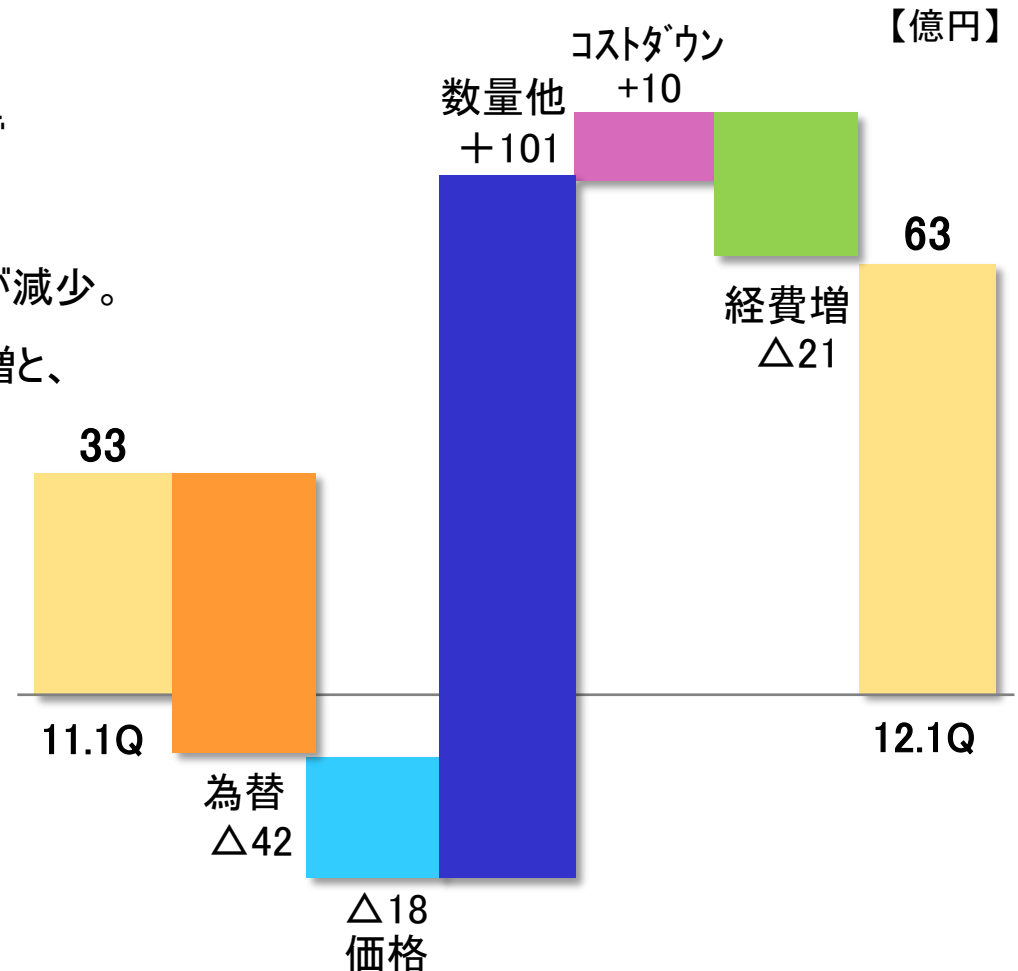
- ▶ **情報機器事業:**
ユーロ安の影響を大きく受けるが、販売モメンタムは維持。
- ▶ **産業用材料・機器事業:**
TACフィルムに加え、HDD用ガラス基板や光学ユニットも収益拡大に寄与。
- ▶ **ヘルスケア事業:**
フィルム売上縮小も、デジタル入力機器 (CR/DR) が大きく販売拡大。



2012年度1Q 営業利益増減分析

為替の円高影響やM&Aに伴う経費増を販売数量増などで吸収し、前年同期比大幅増益

- ▶ 為替影響：情報機器事業がユーロなど欧州通貨で△39億円の減益影響。
- ▶ コストダウン：産業用材料・機器事業では、償却費が減少。情報機器事業では、新製品増産に向けた固定費増と、中国生産拠点再編に伴う一時的な費用が発生。
- ▶ 数量他：情報機器事業/ +63億円、産業用材料・機器事業/ +41億円
- ▶ 経費：情報機器事業はM&Aにより費用増。



情報機器事業 概況



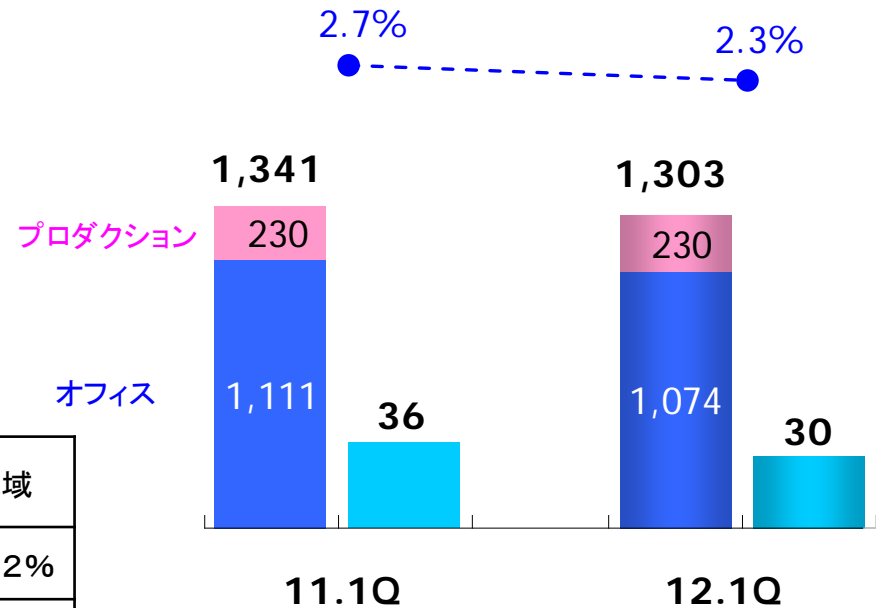
KONICA MINOLTA

- ▶ 売上高 : 1,303億円 対前年 $\Delta 3\%$ (除く為替影響 +3%)
- ▶ 営業利益 : 30億円 対前年 $\Delta 16\%$ (除く為替影響 +91%)

オフィス、プロダクションプリントとも販売モメンタムに変化なし

- ▶ オフィス : カラーMFP新製品の2Q本格展開を見据えた販売計画に対し、計画通りの販売状況。
- ▶ プロダクション: 当期後半より顧客の受注が上向く。

左:売上高 右:営業利益 ー営業利益率 【億円】



地域別 売上高増減(為替影響除く)

	日本	米国	欧州	中国	全地域
オフィス	+2%	+9%	+0%	0%	+2%
プロダクション	+19%	+4%	+4%	+11%	+5%

情報機器事業 販売状況

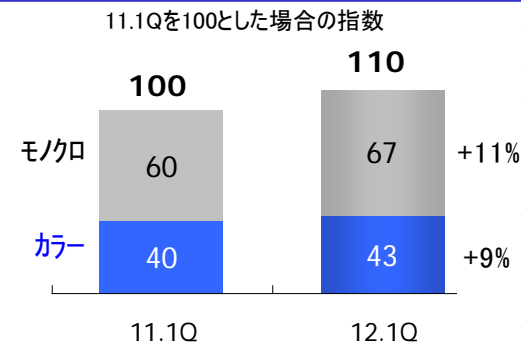


KONICA MINOLTA

オフィスA3MFP 販売数量増減 (YoY)

- ▶ 米国、新興国中心に販売は堅調。
- ▶ 欧州は南欧が減速するも、想定の範囲内。

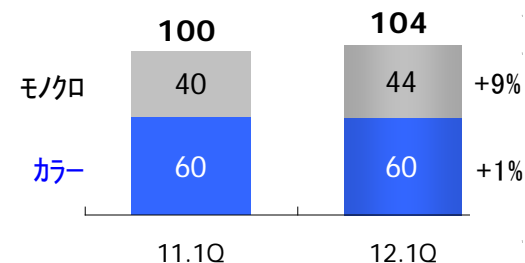
	日本	米国	欧州	中国
地域別販売台数 前年伸長率	+3%	+17%	0%	+3%



プロダクションプリント機 販売数量増減 (YoY)

- ▶ 日本および北米は販売台数減となるが、カラーハイエンド機が大幅増。

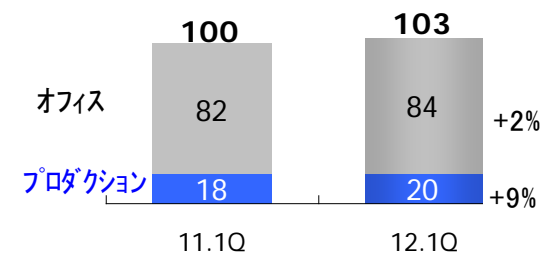
	日本	米国	欧州	中国
地域別販売台数 前年伸長率	△14%	△4%	+7%	+36%



ノンハード売上 (現地通貨ベースYoY)

- ▶ オフィス、プロダクションプリントともに成長。

	日本	米国	欧州	中国
地域別ノンハード 売上増減	+4%	+2%	+4%	+8%

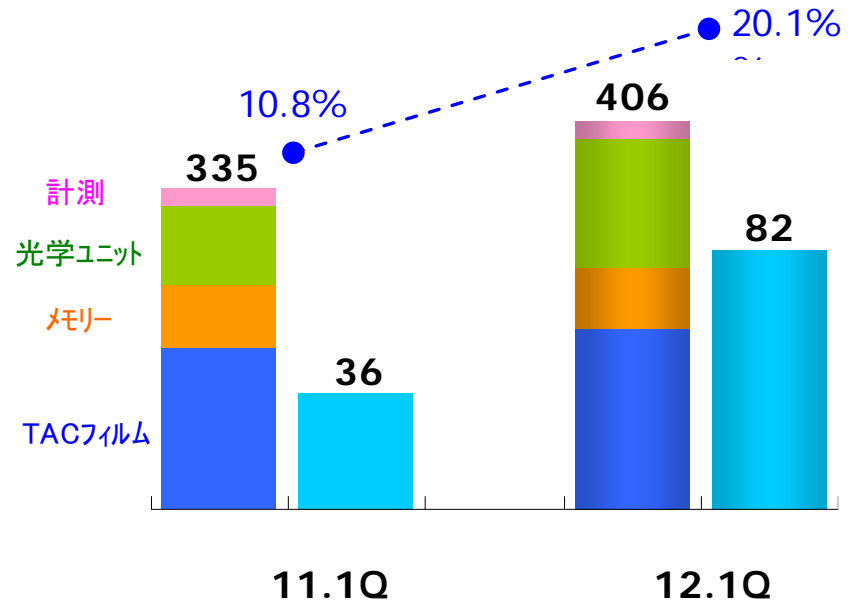


- ▶ **売上高** : 406億円 対前年 +21%
- ▶ **営業利益** : 82億円 対前年 +125%

TACフィルムをはじめとして、各製品分野で収益改善が進む

- ▶ **TACフィルム** : 昨年来の好調な販売モメンタムを維持。
- ▶ **メモリー** : HDD用ガラス基板は、タイ洪水影響の解消に加え、500GB品の出荷も開始。
光ピックアップレンズはBDが伸び悩む。
- ▶ **光学ユニット**: カメラ付携帯電話用レンズユニットは、搭載製品の拡大により大幅数量増。
デジタル一眼用交換レンズやデジタルシネマ用プロジェクションレンズなどの販売も拡大。
- ▶ **計測機器** : 光源色用計測機器の販売が好調に推移。

左:売上高 右:営業利益 ー営業利益率【億円】



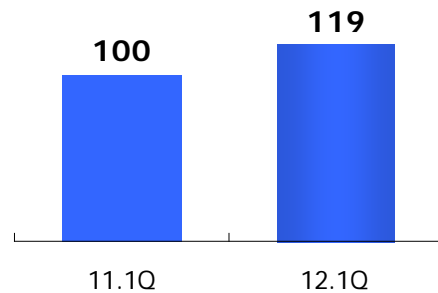
産業用材料・機器事業 販売状況(数量ベース)



KONICA MINOLTA

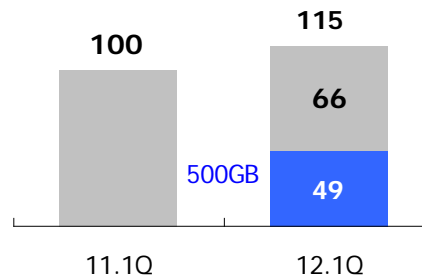
TACフィルム

- ▶ VA-TACが大幅伸長、通常品でも薄膜タイプの採用拡大。



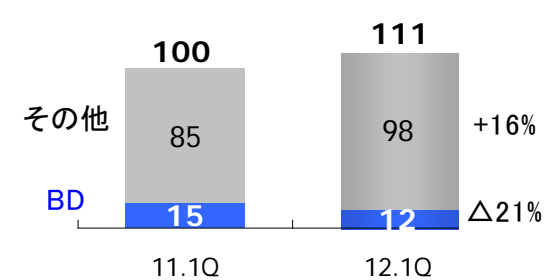
HDD用ガラス基板

- ▶ 受注回復に加え、500GB品の出荷も開始。



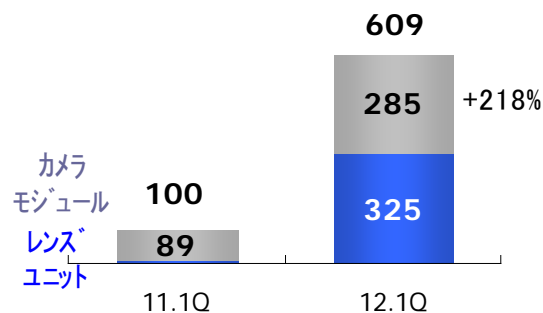
光ピックアップレンズ

- ▶ DVDは増加するが、BDは低調な状況が続く。



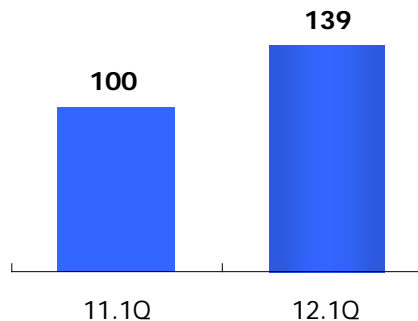
カメラ付携帯用レンズ

- ▶ 新機種への搭載により大幅増。



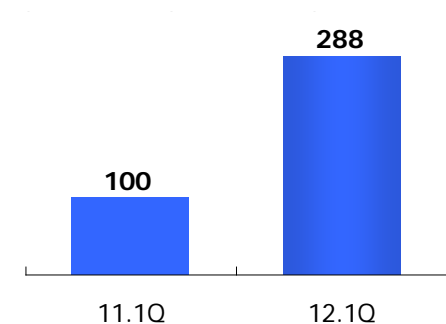
デジタル一眼レフ用交換レンズ

- ▶ 顧客の販売好調により増。



光源色計測機

- ▶ 大口顧客獲得により大幅増。



11.1Qを100とした場合の指数

ヘルスケア事業 概況



- ▶ 売上高 : 158億円 対前年 +2%
- ▶ 営業利益 : Δ2億円 対前年 +4億円

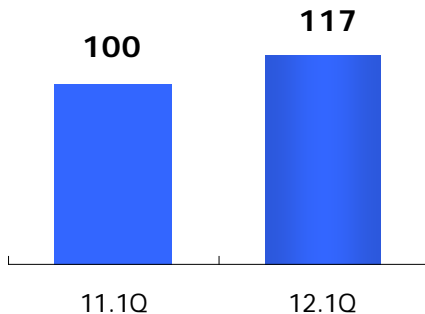
営業損失は残るも、デジタル入力機器の販売増で収益モメンタム改善

- ▶ デジタル入力機器の販売増により増収。
DRは発売後1年で1千台突破。
- ▶ 経費管理の徹底により損益も改善。

左: 売上高 右: 営業利益 - 営業利益率 【億円】

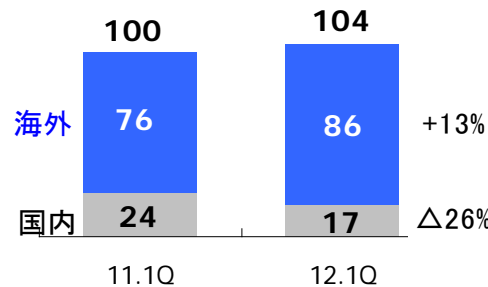
CR・DR

- ▶ CR・DRともに前年比増。

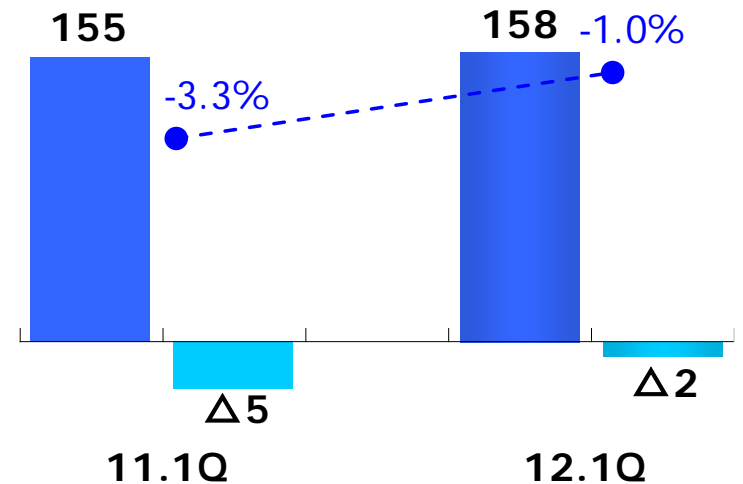


DRYフィルム

- ▶ 海外は新興国で販売増。

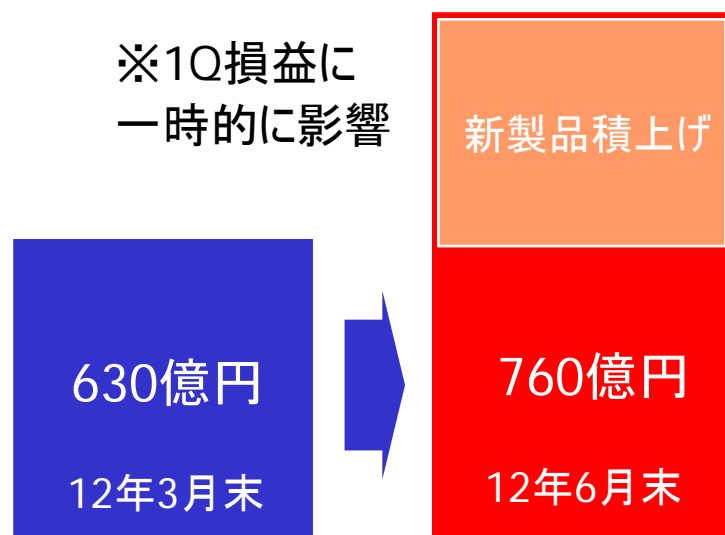


11.1Qを100とした場合の指数



オフィスMFPは計画通り進捗し、前年比+10%の台数成長を達成。2Qでのカラー新製品の本格展開を睨んだ仕込みとして、1Q末の新製品在庫を積み上げた。

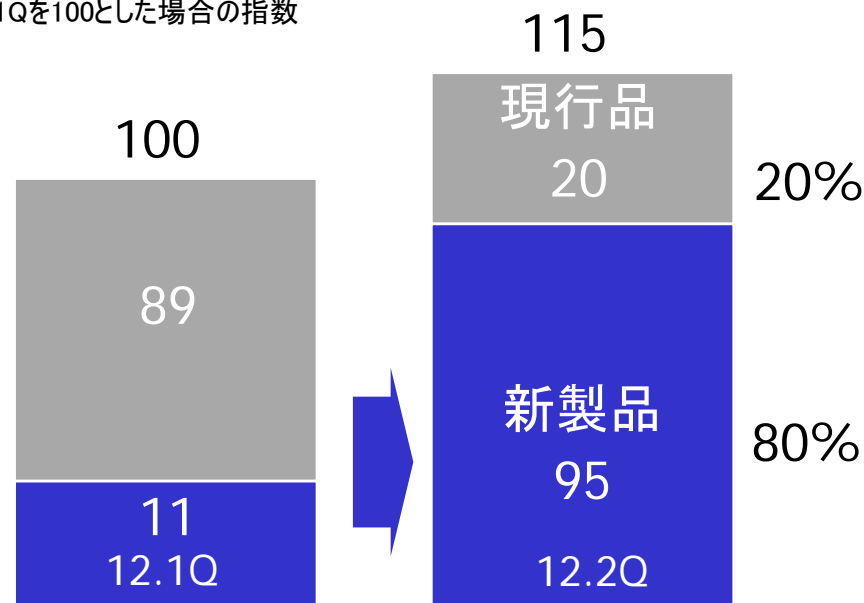
期末製品在庫の推移



Giving Shape to Ideas

オフィスカラーMFP 2Q販売計画

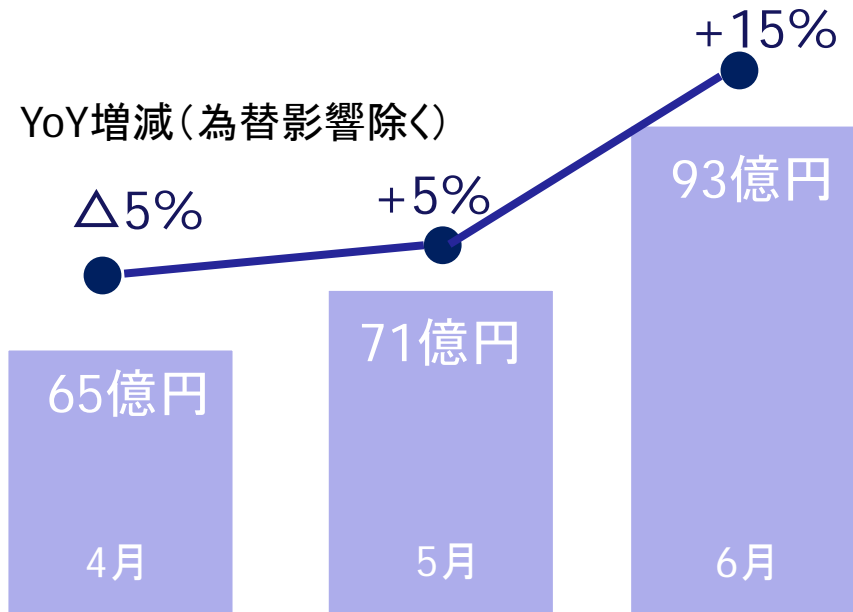
11.1Qを100とした場合の指数





1Qは、前年4Qの反動やDRUPAに向けての買い控えを織り込み、スローなスタートを計画し概ね計画通りの進捗。6月からはモメンタムが回復し、2Qでの販売拡大に繋げる。

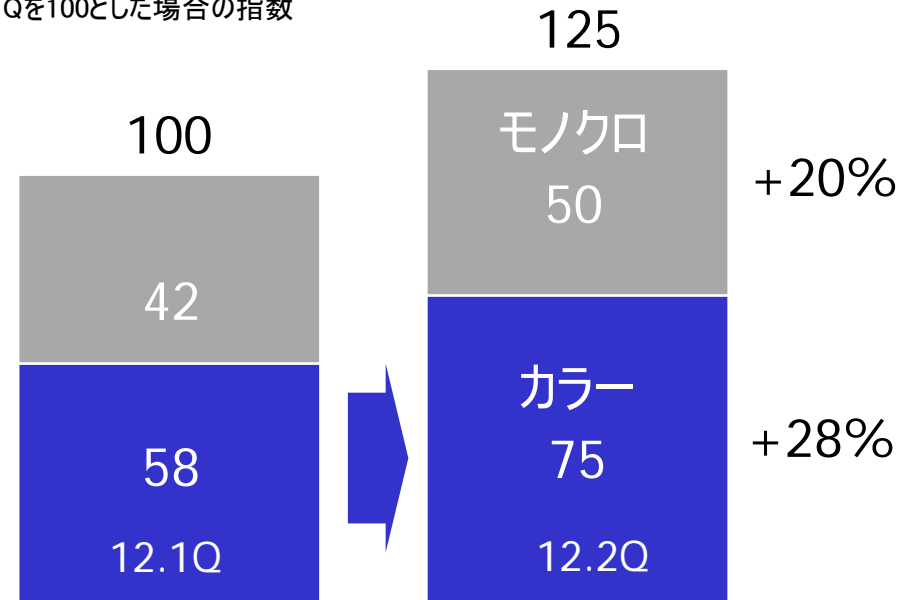
4-6月の売上推移



Giving Shape to Ideas

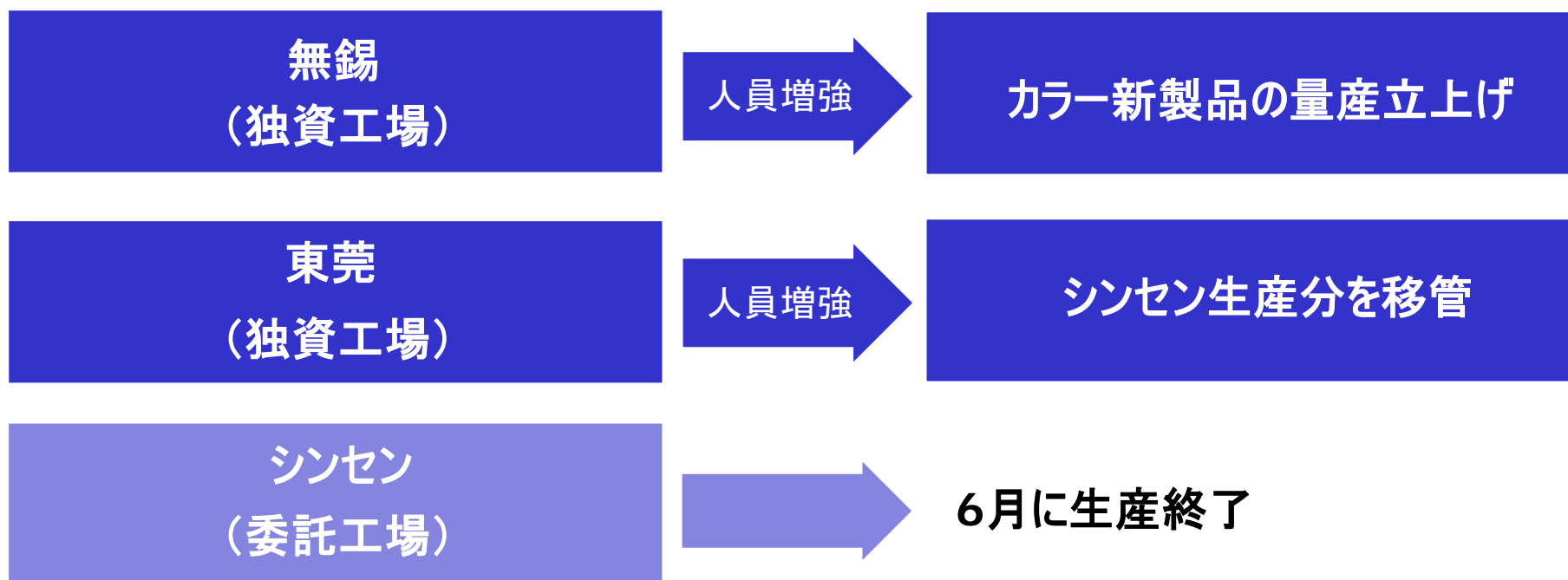
PP機 2Q販売計画

11.1Qを100とした場合の指数



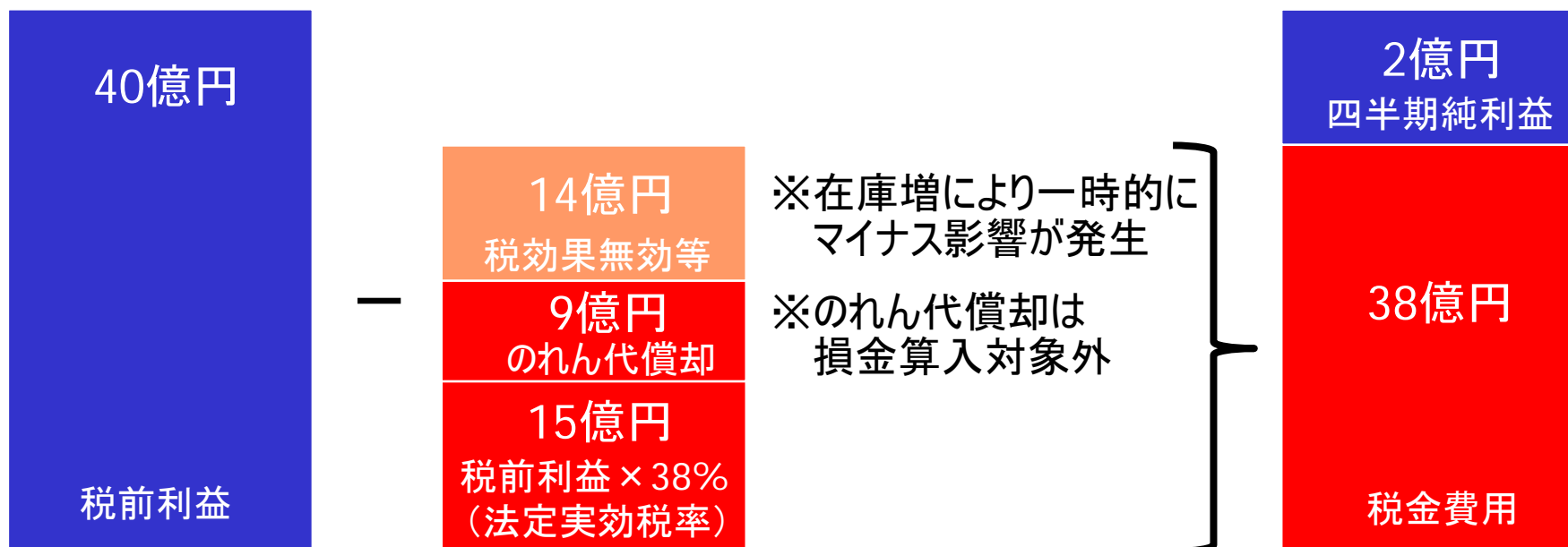
- ▶ OPS売上高： 51億円（対前年 +61%）
- ▶ GMA売上高： 30億円（対前年 +48%）
 - ・Erste Group Bank AG（中東欧最大級のフィナンシャルグループ）から、あらたにシングルサプライヤーとして契約更改。
- ▶ M&A： 欧州で2件、日本で1件実施
 - ・フランス： Serians社買収（ITサービスとMFP販売のハイブリッドディーラー）
 - ・トルコ： 販売代理店を買収し、販売会社化。
 - ・日本： フェデックスキンコース・ジャパン買収（日本最大手のプリントショップ）

中国内3拠点でのMFP生産体制を2拠点に集約。
1Qは、新製品立上げと拠点集約に伴う移管業務等の
同時進行で一時的にコスト増となるが、2Q以降は解消。



- ▶ オフィス、プロダクションとも販売計画に概ねインライン。
・台数・金額(ハード・ノンハード、現地通貨ベース)とも前年比プラスを維持。
- ▶ OPS、GMAは成長持続。M&Aも着実に推進。
- ▶ 「新製品在庫の積上げ」及び「中国生産拠点集約」が1Q損益を一時的に押し下げる要因となった。
- ▶ オフィスカラー新製品の拡販、プロダクションの販売増をドライバーとして、2Q利益の最大化を目指す。

利益水準により四半期では法定実効税率とのギャップにバラツキが生じるが、通期ベースでは平準化される見込み。
 期初予想の[当期純利益: 220億円]には影響なし。



円高、欧州不安など予断を許さない経営環境ながら、1Qでの順調なスタートを踏まえ、期初予想(5月10日公表)の[売上高:8,000億円、営業利益:480億円]を据え置く。

- ▶ 2Q以降の為替前提は、期初予想時からユーロを5円円高に見直し、[1ドル=80円、1ユーロ=100円]とする。
- ▶ 長引く欧州問題による需要減速を懸念するも、現時点では市況に大きな変化はないものと見込む。
- ▶ 配当予想は、[年間:15円/1株(連結配当性向:36%)]を据え置く。
[中間、期末:各7.5円/1株]
- ▶ 2Qも、1Qに引き続き前年同期比増収増益を目指す。

2012年度業績予想 全社業績



KONICA MINOLTA

[億円]

	12年度予想	11年度実績	YoY															
売上高	8,000	7,679	4%															
営業利益	480	403	19%															
(営業利益率)	6.0%	5.3%																
のれん代償却額	88	88	0%															
のれん代償却前営業利益	568	492	16%															
(のれん代償却前営業利益率)	7.1%	6.4%																
経常利益	440	348																
当期純利益	220	204	8%															
(当期純利益率)	2.8%	2.7%																
	※2Q以降の想定レート																	
為替レート [円] US\$	80.00	79.07																
Euro	100.00	108.96																
			<table border="1"> <tr> <td colspan="3">為替感応度</td> </tr> <tr> <td colspan="3">(1円変動時の年間影響額)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>売上高</td> <td>営業利益</td> </tr> <tr> <td>US\$</td> <td>29億円</td> <td>4億円</td> </tr> <tr> <td>Euro</td> <td>14億円</td> <td>8億円</td> </tr> </table>	為替感応度			(1円変動時の年間影響額)				売上高	営業利益	US\$	29億円	4億円	Euro	14億円	8億円
為替感応度																		
(1円変動時の年間影響額)																		
	売上高	営業利益																
US\$	29億円	4億円																
Euro	14億円	8億円																
設備投資	500	340																
減価償却費	550	492																
研究開発費	730	725																
FCF(営業CF-投資CF)	△ 100	296																
<参考> 営業CF-設備投資CF	300	374																

2012年度業績予想 セグメント別売上高・営業利益



KONICA MINOLTA

[億円]

売上高	12年度予想	11年度実績	YoY
情報機器	5,700	5,476	4%
産業用材料・機器	1,400	1,351	4%
ヘルスケア	750	730	3%
ホールディングス他	150	121	-
グループ計	8,000	7,679	4%

営業利益 (右側: 営業利益率)	12年度予想		11年度実績		YoY
情報機器	460	8.1%	395	7.2%	17%
産業用材料・機器	170	12.1%	151	11.2%	12%
ヘルスケア	10	1.3%	1	0.0%	-
ホールディングス他	△ 160		△ 144		-
グループ計	480	6.0%	403	5.3%	19%



ユーロ前提を5円円高に見直したことへの対応

- ▶ 情報機器事業では、円高を吸収できる製造コスト低減活動の加速。
- ▶ (ユーロ圏外の)米国、日本、アジア新興国での販売強化。
- ▶ 産業用材料・機器事業では、調整など市況変化を睨みつつ、もう一段の収益拡大を追求。

業績目標達成において考慮すべきリスク

- ▶ 欧州債務問題のユーロ圏内での拡大、ユーロ圏外への波及。
- ▶ それに伴う、更なる円高の進行と市況の悪化。
- ▶ (異常気象・大地震など想定外の天災・事故の発生。)



KONICA MINOLTA

< 参 考 资 料 >

2012年度1Q 全社業績



KONICA MINOLTA

[億円]

	12年度 1Q	11年度 1Q	YoY
売上高	1,894	1,862	32
売上総利益	863	836	27
(売上総利益率)	45.6%	44.9%	-
営業利益	63	33	31
(営業利益率)	3.3%	1.8%	-
のれん代償却額	23	22	1
のれん代償却前営業利益	86	55	31
(のれん代償却前営業利益率)	4.6%	3.0%	-
経常利益	48	26	22
四半期純利益	2	△ 1	3
(四半期純利益率)	0.1%	-0.1%	-
EPS(円)	0.29	△ 0.21	
設備投資額	78	49	
減価償却費	107	117	
研究開発費	176	190	
FCF(営業CF+投資CF)	△ 163	6	
<参考> 営業CF+設備投資CF	△ 97	49	
為替レート [円] US\$	80.20	81.74	△ 1.54
Euro	102.91	117.40	△ 14.49

営業利益増減分析

四半期 前年同期比較
(12年度1Q vs. 11年度1Q)

	情報機器	産業用 材料・機器	その他	合計 [億円]
[要因]				
為替影響	△ 39	△ 1	△ 2	△ 42
価格変動	△ 2	△ 15	△ 1	△ 18
数量増減他	63	41	△ 3	101
コストダウン	△ 6	15	1	10
経費増減	△ 22	7	△ 6	△ 21
[営業利益]				
増減額 (YoY)	△ 6	46	△ 9	31

販売管理費・営業外損益・特別損益



KONICA MINOLTA

	12年度 1Q	11年度 1Q	YoY [億円]
販売管理費			
販売変動費	109	105	4
研究開発費	176	190	△ 14
人件費	309	303	6
その他	206	205	0
販売管理費 計	799	803	△ 4
	* 為替影響額: △ 26 億円(実質増減 +21 億円)		
営業外収支			
金融収支	△ 1	△ 1	0
為替差損益	△ 10	△ 7	△ 3
その他	△ 5	1	△ 5
営業外収支 計	△ 16	△ 7	△ 8
特別損益			
固定資産売却損益	△ 7	△ 2	△ 5
投資有価証券評価・売却損益	△ 1	△ 18	18
事業構造改善費用	-	-	0
その他	△ 0	△ 1	1
特別損益 計	△ 8	△ 22	14

キャッシュ・フロー



KONICA MINOLTA

	12年度 1Q	11年度 1Q	YoY [億円]
税金等調整前四半期純利益	40	4	36
減価償却費	107	117	△ 10
法人税等の支払額	△ 42	△ 34	△ 8
運転資本増減他	△ 114	33	△ 147
I. 営業活動によるキャッシュフロー	△ 9	120	△ 129
II. 投資活動によるキャッシュフロー	△ 154	△ 114	△ 41
I.+ II. FCF	△ 163	6	△ 169
有利子負債の増減	37	28	9
配当金の支払額	△ 38	△ 38	0
その他	△ 3	△ 4	0
III. 財務活動によるキャッシュフロー	△ 5	△ 14	9

貸借対照表



KONICA MINOLTA

資産の部	12年6月	12年3月	増減 [億円]
手元資金	2,153	2,319	△ 166
売上債権	1,649	1,742	△ 93
棚卸資産	1,095	1,051	44
その他	564	547	17
流動資産 計	5,462	5,659	△ 198
有形固定資産	1,739	1,790	△ 51
無形固定資産	886	873	13
投資その他	678	698	△ 20
固定資産 計	3,304	3,361	△ 57
資産 合計	8,766	9,021	△ 255

負債および純資産の部

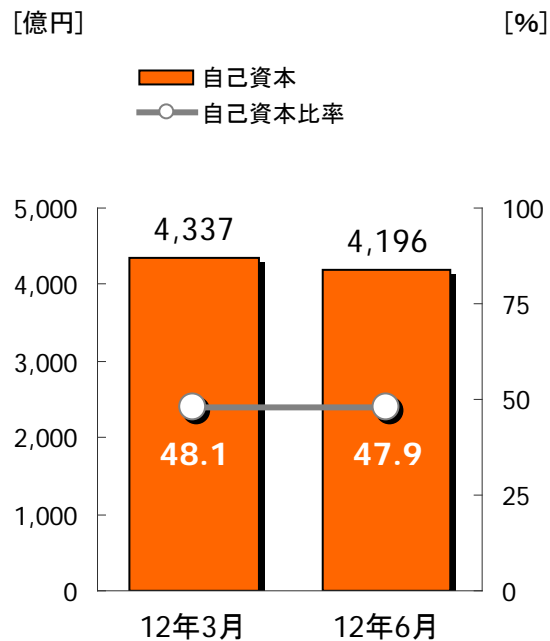
仕入債務	858	881	△ 23
有利子負債	2,296	2,279	16
その他負債	1,401	1,510	△ 109
負債 合計	4,556	4,671	△ 115
自己資本 (株主資本+その他包括利益累計額計)	4,196	4,337	△ 141
その他	14	13	1
純資産 合計	4,210	4,350	△ 140
負債・純資産 合計	8,766	9,021	△ 255

[円]

	12年6月	12年3月	増減
US\$	79.31	82.19	△ 2.88
Euro	98.74	109.80	△ 11.06

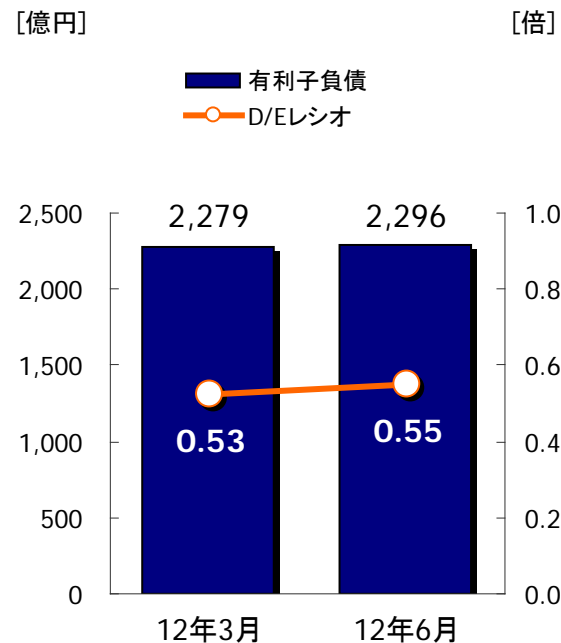
連結貸借対照表 主要指標

● 自己資本比率



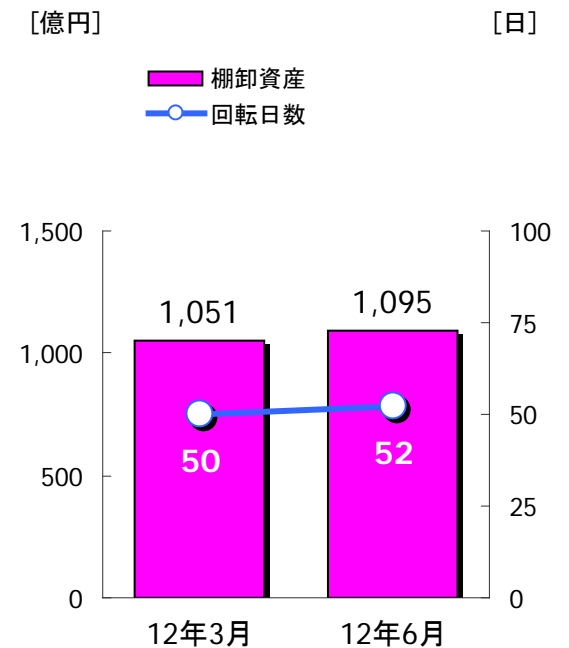
自己資本比率:
 自己資本÷期末総資産
 ※自己資本=期末株主資本+その他包括利益累計額合計

● 有利子負債残高・D/Eレシオ



D/Eレシオ:
 期末有利子負債÷自己資本
 ※自己資本=期末株主資本+その他包括利益累計額合計

● 棚卸資産・棚卸資産回転日数



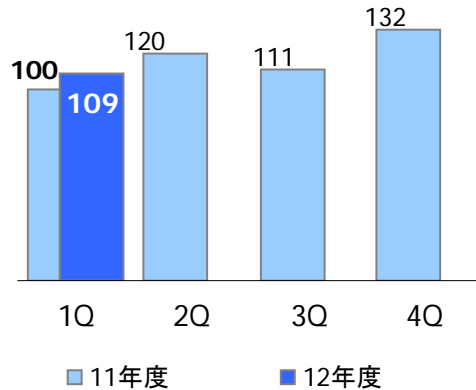
棚卸資産回転日数:
 期末棚卸資産÷(売上/日)

情報機器事業 主要製品販売状況



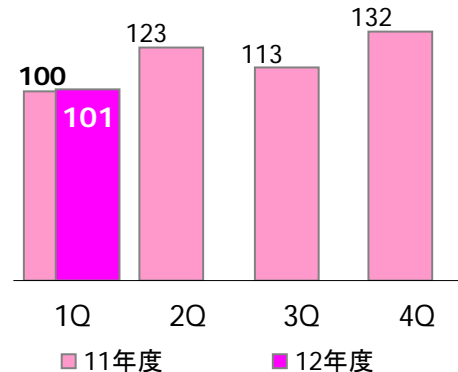
KONICA MINOLTA

■ A3カラーMFP 販売台数*



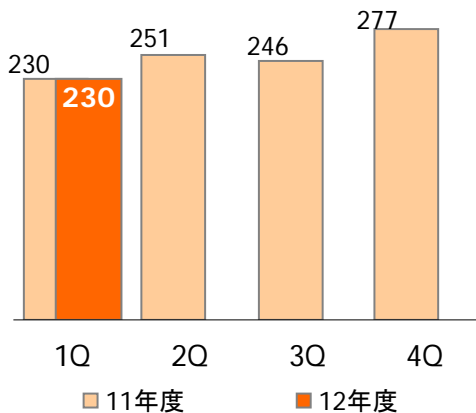
YoY: +9%

■ カラープロダクションプリント 販売台数*



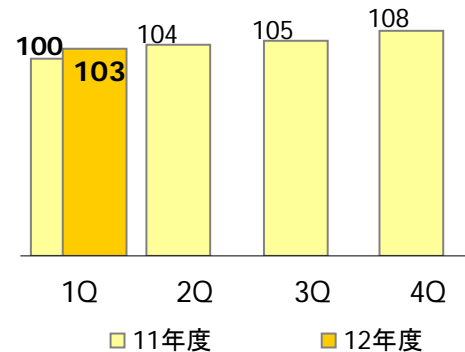
YoY: +1%

■ プロダクションプリント売上高 [億円]



YoY: 0%

■ MFPノンハード売上* (為替影響排除後)



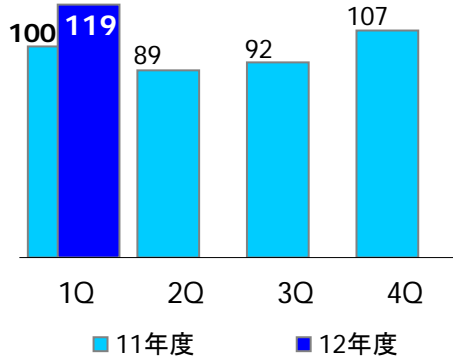
YoY: +3%

産業用材料・機器事業 主要製品販売状況



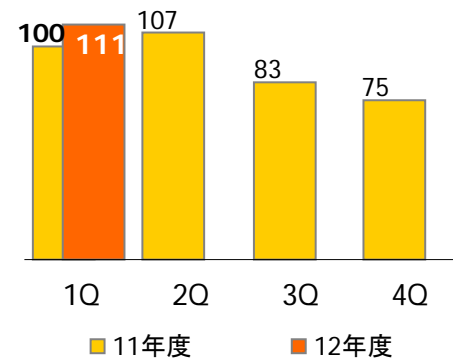
KONICA MINOLTA

■ TACフィルム販売数量



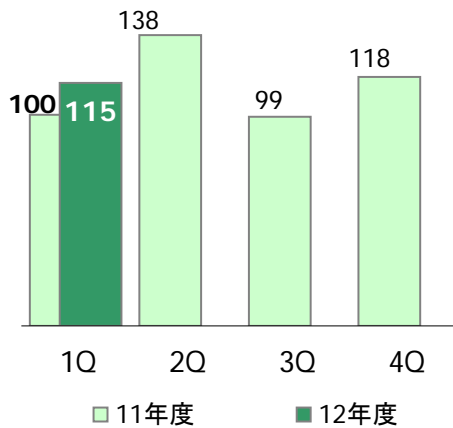
YoY: +19%

■ ピックアップレンズ販売数量



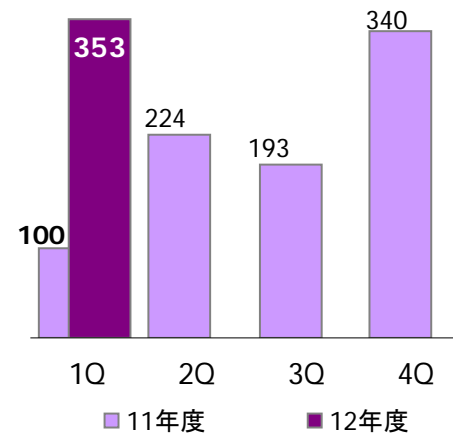
YoY: +11%

■ HDD用ガラス基板販売数



YoY: +15%

■ レンズユニット/モジュール



YoY: +253%

Giving Shape to Ideas



KONICA MINOLTA

- 本資料の記載情報

本資料におきましては、四捨五入による億円単位で表示しております。

- 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料で記載されている業績予想及び将来予想は、現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。